

I n f o r m a t i o n



埼玉県マスコット「ロボン」

花とみどり

特集

花植木類の利用拡大のための
新たな取組み

vol. 74
2021.3.15



住宅に向く花植木の植栽展示



親子寄せ植え教室

花植木類の利用拡大への取組み活動（川口・鳩ヶ谷住宅公園）



埼玉県花と緑の振興センター



本県植木類の利用拡大に力を注いでいます！

花と緑は生活に癒しや潤いを与え、身近に四季を感じとることができます。当センターは約2千品種の植物を植栽展示しています。

令和2年は新型コロナウイルス感染症の拡大により、当センターにおいても4月下旬～5月末の間を休園、講座等の開催も中止しました。再開した7月以降、来園者数は対前年で増加傾向に推移し、紅葉を迎えた10月は前年の1.7倍、11月は1.3倍、約19000人にご来園いただきました。初めて訪れる方、お近くにお住まいの方の増加を実感しました。

多数ご来園をいただいている状況下、お客様の満足度を高め、本県植木類の利用拡大につなげようと、展示園の魅力向上対策を集中的に実施しています。

令和元年度～3年度は、安全で快適に見学いただくため園路等の改修やバリアフリー対策工事を実施、あわせて植栽展示の見直しも継続的に実施しています。

一方、産出額全国第7位を誇る本県植木類の生産者と関係業界の振興のため、県内植木の生産、流通、販売関係団体等による新たな利用拡大事業への支援や、建築や住宅メーカー、エクステリアを担う方々を対象に本県植木類PRや植栽提案などのセミナーを新たに開催しました。

当センターは、社会経済情勢の変化や消費者、実需者の方々のニーズを踏まえつつ、本県植木類の利用拡大に取り組んでまいります。

緑のコラム

～コロナ対応の動画配信～

当センターでは広く県民の皆様には花植木に親しんでいただくために、例年、植物や園芸に関する「緑化講座」を開催しています。

令和2年度は、コロナ禍のなか、お客様に来ていただく「緑化講座」や植物展示の中止期間がありました。

このため、開催できない講座に代えて「インターネット上での動画配信」での情報提供に初めて取り組みました。

外出を控えている期間に、来園できない方々に園内の季節の植物の状況などをお知らせできればという目的もあります。

令和2年12月に2週間配信した「身近な素材でつくるクリスマスリース」は、職員が手作りのクリスマスリースを作る様子を写した動画で、材料や手順を説明した5分弱のものです。

同じ時期に、園内のサザンカを撮影した2分ほどの「花と緑の振興センター園内のサザンカ」も配信しました。

いずれも、埼玉県広聴広報課がYouTube上に設けている「さいたま動画」のメニューのひとつとし



YouTube 上のチャンネル

て配信したものです。

まったく初めての試みで、動画自体の出来もまだまだ工夫の余地が多く、また、動画を配信していることの広報も不十分など、多くの課題が残りましたが、次回に向けて改善を図っていきます。

本来は講座で植物や園芸について直接お伝えし、お客様の声をいただきながら体験や見学をしていただくのが一番なのですが、代替りの手段としてはじめての試み。工夫次第ではこれまでにない効果も期待され、手ごたえを感じており、これからも続けていきます。

トピックス 1

～花植木類の利用拡大のための新たな取り組み～

本県花植木類を取り巻く環境は、都市化の進展に伴うみどりの減少や需要の低迷による価格の低下など産業として、また地域の発展にとって逆風が吹いているような状況にあります。

そのような中、民間需要を今一度掘り起こし本県花植木の利用拡大を目指して、生産、流通、利用の各段階の関係企業、団体などが一丸となって取り組む「花植木類利用拡大推進ネットワーク」（事務局：㈱安行植物取引所）が令和2年7月に設立されました。ここでは、これまであまり実施されなかった大手住宅メーカーなど安定的な需要が見込める大口先へ多様な切り口からアプローチをしようと、各社がしのぎを削る住宅展示場などを主な舞台としています。当センターでは、この取組を積極的に支援しています。

令和2年度は、住宅展示場の出展メーカーへの本県花植木産業の紹介、利用に向けてのセールスや住宅におすすめの樹種や盆栽の常設展示、住宅展示場が主催



電車内広告でPR

するイベントへの参画のほか、産地を沿線に持つ埼玉高速鉄道㈱と連携した車内広告や駅での展示など幅広く活動を展開しました。

これからも多様な発想に基づく活動が展開され、地域の花植木類の利用拡大につながっていくよう支援していきます。



県産花植木の展示 (SR新井宿駅)

トピックス 2

～展示園の魅力向上に努めています～

当センターでは植木類を中心とした約2千種類もの植物を植栽・展示し無料で公開しています。植木類の種類や用途について学んだり、資料として活用いただくことが主な目的で、国内有数の本県植木類の需要拡大につなげています。

さらに、植栽空間を憩いの場として活用いただく側面もあり、展示園を区画に区切って、それぞれにテーマを持たせて植栽しています。

求められる植木類は時代によって変わるので広さに限りがある展示園では植物の入れ替えが必須です。また、樹木の成長に合わせた変更も求められます。

令和2年度は、東園の駐車場の整備に伴い、樹木の入換えなどを行いました。今後も新しいテーマによる植栽や、従来の区画の充実を進め展示園の魅力向上に努めます。



早春の花木を集めました (C-24 区画)

団体 紹介

川口市都市緑化植木生産組合(組合長 石井 力)

ユニット式植栽済みマット「安行四季彩マット」の需要拡大を進めるために川口市内の造園業・植木生産者が平成16年に発足した組織で、組合員は5社です。

主な活動は、県内外の各種展示会やイベントで安行四季彩マットのPRのほか、他の企業とのマッチング推進などです。

このマットは、薄く軽量で移動が容易なため屋上の緑化に適しています。

これまでの県内の商業施設、福祉施設などの屋上緑化への導入実績に加えて、令和2年度は川口市役所新庁舎テラスや近隣の宿泊施設のテラス、公園の施設内の装飾展示など新たな需要拡大に取り組んでいます。



イオン与野店での植栽展示

園内の植栽樹木の紹介⑦

「もみじ」とは、もともとは秋の落葉前に色づく植物を総称するものでしたが、中でも葉の切れ込みの深い「イロハモミジ」の紅葉は大変美しく、好んで鑑賞されたことから、現代ではイロハモミジを代表とする「カエデ属 (Acer) の仲間を、もみじと呼んでいます。ちなみにカエデは、葉に浅い切れ込みがあり、カエルの水かきのある足の形に似ていたことからの呼び名「蛙手 (カエル)」が転じて「カエデ」になったとも言われています。

カエデ科カエデ属の植物は、おもに北半球に分布し、全世界に約 150 種、日本に約 20 種自生しています。当センターでは、日本原産 11 種、中国原産 1 種、ヨーロッパ・小アジア原産 2 種、アメリカ原産 1 種の 15 種類、58 品種、142 本が植栽されています。



イロハモミジ「猩々」



イロハモミジ「紅枝垂れ」

輸出盆栽の推進 ～線虫防除試験を開始～

埼玉県の盆栽は EU 向け輸出額が全国トップクラス。当センターでは、盆栽の輸出推進のため、令和 2 年度から 4 年度の予定で輸出向け盆栽を対象とした、線虫防除の効果が期待される新しい薬剤による線虫防除試験を、県農業技術研究センターと共同で実施しています。この試験は、農研機構 生研支援センターのイノベーション創出強化研究推進事業（応用ステージ）を活用し、中央農業研究センター、千葉県、香川県、福岡県と共同で取り組んでいます。

▶▶▶ 園内の大規模改修を行っています(令和元年度～令和 3 年度) ◀◀◀

令和元年度から植物展示園の安全対策工事を実施しています。令和元年度は、西園園路の再舗装や階段の再建、手すり新設などの工事を行い、安心・快適に見学いただけるようになりました。

令和 2 年度は、東園に来園者用駐車場 17 台分の新設工事を実施、完成すると駐車台数がほぼ倍増し、駐車場から東園へ車いすで行き来ができるようになります。



再整備された園路(西園)

Information

花とみどり

令和 3 年 3 月 15 日発行

発行所/埼玉県花と緑の振興センター

発行人/埼玉県花と緑の振興センター 所長 甲賀 真人

電話 : 048-295-1806

ファクシミリ : 048-290-1012

HP <http://www.pref.saitama.lg.jp/hana-midori/index.html>

E-mail h951806@pref.saitama.lg.jp

